

「目に見える学力」と「目に見えない学力」

校長 久光 新一

例年、4月に小学校6年生と中学校3年生を対象とする「全国学力・学習状況調査」が実施されます。学校における生徒に対する教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的とし、国語・数学（毎年実施）、理科・英語（3年に1度程度の実施）という教科で調査をします。本年度は「コロナウィルス感染症対策」のために中止となりました。「学力の向上」は本校にとっても喫緊の課題ですが、学力をどうとらえるかは非常に大切なことだと思います。

私は学力には、「目に見える学力」と「目に見えない学力」があると思います。

「目に見える学力」とは簡単に言うと、数値で示すことのできるものです。「全国学力・学習状況調査」の結果はまさにその例です。

「目に見えない学力」とは生きていく上で必要とされる力です。思いやりやコミュニケーション能力など広い意味での「社会性」です。本来は、この2つの学力をバランスよく育成していくことが学校にとって重要なことであると考えます。



朝の学習活動（1年生）

しかし、実際はどうしても「目に見える学力」に関心がいきがちです。数値で示されるだけに比較対象ともなります。

本校では「数学」の結果に課題が見られたため、その方策として今年度より朝の学習時間を活用して、全校体制で「99点の壁！～基本の積み重ねが100点に変わる～」を実施しています。反復学習と評価テストを1週間単位で継続的に行い、積み重ね学習である「数学」の基礎・基本の徹底を図るというものです。



「全国学力・学習状況調査」の結果はいろいろなとらえ方や分析ができます。一番顕著な見方は「全国平均・県平均」との比較です。数字で表されるので仕方がありませんが、私が大切に考えているのは「生徒個々の伸び率」です。

すなわち、「昨年度よりどれだけ向上したか」という視点です。その積み重ねが全体の数字となって、「全国平均・県平均」に近づいていくことを目指しています。日々の学習の積み重ねを大切にしていきたいと思います。



「99点の壁」への取組